

さわかぜ

sanwa chiku-syakyo

発行責任者:三和地区社会福祉協議会
会 長 福 田 隆 一
編集責任者:広報部長 川 上 保
事 務 局 :三和保健福祉センター内
(サンハート内)
電 話 :0436-37-7100



< 改めて知る健康の大切さ「地域包括支援センター講話「介護保険の実情」 >



↑ 歌に合わせて踊りの輪が出現

← ムードメーカー高田フジさん大活躍



サロン・むつみ会の皆さん「オール登録会員は38名です！」と語ってくれた伊藤洋子さん(後列右)



< 元気な声がこだまする会場 >

昨二十三年度、市原高校・双葉中学校・光風台小学校と地区社協の四者が検討し、子供達への福祉教育の一環として取組んだ昔遊びの伝承も、二月二十八日、光風台小での実施で一巡しました。子供たちの楽しかった」と言う気持ちと、世代間交流の一体感が好評を生み、学校側からは、今年度も継続したいとの意向が示されています。

会場となった光風台小学校体育館には、指導役を担う双葉中学校の生徒さん三十名、受講する小学生七十八名(六年生五十名・一年生二十八名)が集い、補助役の社協役員七名、教職員十余名、総勢百余名が参加する活気に満ちた催しとなりました。

トライする五つの遊びに合わせたグループ編成が生まれ、それぞれ順に五つの遊びを一通り体験する手順です。予め定められた時間配分の中で、指導役の中学生達が見事なリーダーシップを発揮し、元気一杯の小学生に対応。そんな姿に接し、参加した社協メンバーも、頼もしさを感じる一時となりました。

地域にお住いの皆さまも、彼らに活躍の場を与えて頂ければ幸いです。



< 指導役/双葉中学校の生徒さん30名と、受講生/光風台小学校の生徒さん78名の皆さん >

養老地区では二番目となる共生型サロンが山田町会に発足。その取組みがスタートしました。愛称は、むつみ会。

地区社協広報部では、この情報に基づき、五月十五日、実施第二回目の様子を訪問取材させて頂きました。

会場は、山田町会自治会館。この日予定されていた講話は、地域包括支援センター長・ひまわりの四方さんから介護保険の実情について受講。その後は賑やかな談笑に始まり、ムードメーカーの高田フジさんが、艶のある声で「河内男節」を歌いだすと、それに合わせるようになんと踊りの輪が出現。調和に充ちたサロン・むつみ会でした。

コロナ禍の影響で、自然消滅してしまっただけの場。

「あの頃のようにみんなが集まる場が欲しいね」そんな声を耳にした民生委員の石橋喜代子さん。地区社協が地域づくり

ふれあいの場 再び結成

の一端として進める共生型サロンに思いあたり、それとなく町会のみなさんの声を聞いて見たそうです。すると、多くの人が、同

第3弾!

県福祉教育プログラム

高校↓中学校↓小学校へと一巡

学校側・24年度も継続の意向

じ思いでいることがわかり、主だったメンバーと相談して、参加希望者を募ったところ、三十八名の方々が名乗りを上げてくれたそうです。

サロンの愛称を「むつみ会」とすること。また、毎月十五日の月次開催や、配膳等のセルフサービスと言った基本的な運営の在り方をみんなで決め、四月十五日(第一回)から取組みをスタートさせた

そうです。

「月に一度ですが、町会のみなさんと顔を合せ、お互い楽しい時間を過ごすのはよいことです。これからは是非続けて行きたいですね。」と、同町会、伊藤洋子さんは語ってくれました。

市社協
ホーム
ページ
QRコード



回顧録

第6弾



昭和四十八年四月、私は中学卒業と同時に自衛隊少年工科学学校（現在は同高等工科学校と言う）へ入校した。旭川駅から函館本線、青函連絡船、東北本線を乗り継ぎ横須賀まで、長い赴任の旅だったが、初めて北海道を離れる私にとって、見るものすべてが新鮮に映り、わくわく感でいっぱいだった。少年工科学学校生は、

「自衛隊生徒」と呼ばれ、十五歳にして自衛官（特別職国家公務員）という身分に驚いた。同期生は全国から五百名以上が集まり、身体検査、面接等を受けたが、一週間の見極め期間を過ぎる頃には数十人が脱落していた。三年間の共同生活は、通常の高校教育に加え自衛隊の教育や各種訓練に追われながらも充実していた。学びながら給与を

元陸上自衛隊航空学校
整備・操縦教官 八巻 正時
初めて北海道をでるワクワク感

シリーズ ②

災害復旧派遣を目に 自衛官としての意識強まる

支給されていたが、自衛官と言う意識が強くなったのは、一期先輩の生徒たちが、三浦半島台風直撃に伴う災害復旧へ派遣されたのを目の当たりにした事だった。横須賀での前期教育三年間を終え、その後の中期教育（八か月）は、茨城県勝田市の施設学校にて、車両の整備を学んだ。残る最終過程、後期教育は部隊勤務で終了。四年間の生徒過程をすべて終え、晴れて自衛官となった。自衛官としての最初の赴任地は、北海道岩見沢だった。同地で二年間、その後、名寄市の部隊に移り二年間を過ぎた。名寄ではスキーの合宿組へ編入され、体力強化へ向けた厳しい訓練に明け暮れ、二月実施の方面隊スキー大会へも出場した。大会後は通常、原隊（名寄）へ復帰することになるが、ちようどその時期に昇給や幹部任用試験の教育の話があり、受講を決意した。結果的にこの受講が私の自衛官人生のその後を左右する機会となった。その選択肢は、ヘリコプター操縦士試験だった。一次・二次試験共に合格し、新たな職位への大きな転換期となった。

【次号へと続く】

賛助会員加入のお願い

まごころの寄付から始まる
地域福祉への参加！

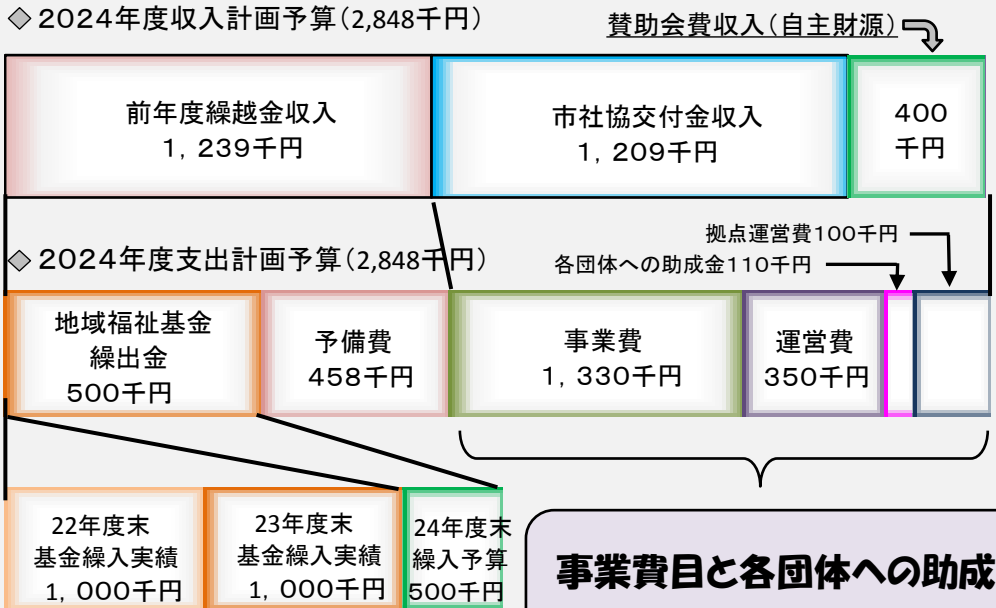


賛助会員とは……

三和地区社会福祉協議会では、地域福祉の向上を目的に、地域住民の皆さまをはじめ、地区内各種団体の支援を頂きながら地域福祉事業に取り組んでいます。この地域活動を支えて頂くのが、**賛助会員制度**で、多くの皆さまに事業活動資金として、賛助会員の会費を拠出して頂いております。会費の納入によって資格とか権利が生じるものではありませんが、『みんながつながる、支え合い・助け合う三和をつくろう』という、地区社協の基本理念の下、皆さんから寄せられた賛助会費は三和地区の福祉活動に還元して参ります。

募集期間：2024年7月1日(日)～8月31日(土)
賛助会費：個人会員様1,000円/1口～
団体会員様(町会としてのご寄付等)→それぞれに応じて何口でもOKです。
※ 会員加入のお伺いは、町会に所属する社協理事、帰属理事のいない町会では、町会長または民生児童委員の方に取りまとめをお願いしております。

賛助会費はどのように使われるの？→一般会計に繰入れ社協の活動資金となります。

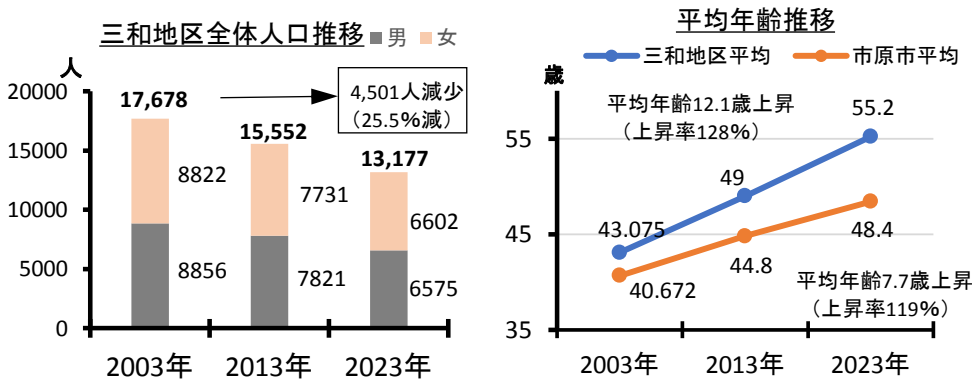


事業費目と各団体への助成

- 地域づくり部 → 共生型サロン事業、フリーマーケット事業、子育てサロン事業
- 生活支援部 → 高齢者支え合い事業、買い物ツアー事業、相談支援事業
- 安心安全部 → 安心安全を守る事業、子供の安全を守る事業、災害支援ボランティア事業
- 連携基盤づくり部 → 賛助会員募集事業、担い手養成事業、福祉教育活動促進事業
- たすけあい支援部 → 高齢者・障がい者支援、たすけあい三和事業
- ネットワーク部 → 4地区ネットワーク事業
- 広報部 → 広報による啓発事業
- 運営費 → 会議費、交際費、研修費、事務費、拠点経費
- ◇各助成先 → 民生委員児童委員協議会、老人クラブ連合会三和支部、子育て家庭支援員三和支部、更生保護女性会三和支部、市原市手をつなぐ親の会、食生活改善協議会三和支部、青少年相談員三和支部

地域福祉基金とは？

繰越金(一般会計)の中から、新たな地域福祉事業の発足・推進に資する事業予算に備える財源として、2022年度理事会審議を経て制定された三和地区地域福祉基金規程に基づき運用されています。なお、本基金を取り崩す場合は、理事会での審議・承認が必要な特別会計となっています。



データで見る三和地区人口動態推移

